

「そうじ」への取り組みから見えるもの

おはようございます。

カレンダーは早くも2月です。3年生がこの吹上北中に通う日も、今日を含め残り26日になりました。是非、1日1日を大切にしてください。

ところで、皆さんはどんな人・友だちを尊敬し、信頼しますか。

「足が速い人」「数学や英語のテストがいい人」もその対象でしょうが、どちらかと言うとそれは「尊敬、信頼」という対象ではなく「憧れ、羨む」対象かもしれません。

他にも「嘘をつかない人」「約束を守る人」「自分が辛い時に声をかけてくれる人」などを理由に挙げる人もいます。

実は私自身、学校の教員になってから「この生徒は信頼できる」「この生徒は中学生として以上に、人として尊敬できる」と判断する基準があります。

それは「そうじ」への取り組みです。

なぜかと言えば、「勉強」や「部活動」は、どちらかと言えば「自分のため」の活動であるのに対して

ひと

「そうじ」は他人のための活動であると考えからです。

つまり、人が見えても、例え、人が見ていない時にでも、掃除をしっかりと取り組める生徒は、真に「心が強く、人に優しい生徒」だと思うからです。

では、ここで皆さんに質問します。

「あなたのクラスで、清掃を毎日頑張っている人は誰ですか？」

「その人をあなたは「尊敬、信頼」できますか？」

きっと、「そうじ」への取り組みと「尊敬、信頼」の感情がイコールと感じる人が多いと思います。

以前「金八先生」という中学校を舞台とした学園テレビドラマで主演の武田 鉄也さんが、生徒に言ったセリフを紹介します。

「日本の学校では、『そうじ』は授業なんです。だから、国語や数学と同じように、時間割に『そうじ』という時間があるのです。」

確かに、掃除という時間は、世界各国の学校にある訳ではありません。私が知る限り、アメリカではジャンターと呼ばれる大人の用務員さんがいて、大きな掃除機で学校中を掃除してくれます。そのせいか、子どもたちは人から言われたい限りゴミを拾わない傾向があるようです。

それに対し、日本の学校はどうでしょう。

これも私が知る限りですが、「そうじ」の時間がない小・中学校を聞いたことがありません。しかも、武田さんが言ったように、時間割に「そうじ」という時間が明記されています。

ここ吹上北中でも、ほぼ毎日「そうじ」が行われています。

ひと

多くの皆さんが、雑巾やほうきを手にして、他人のために担当場所をきれいにしてくれています。

そうした皆さんの「そうじ」への取り組み方を見て、私は「この生徒は信頼できるな」「この生徒の取り組みは尊敬に値するな」と判断しています。

逆に掃除がいい加減な生徒には、例え、勉強や運動で優れていても、残念ですが、信頼できる生徒とは見ていません。

私は「そうじ」は、その生徒の本心や人間性を映し出す鏡だと思っています。

今日は、「そうじ」への取組みで見えるもの、という話をしました。

この話から、昨日よりも一人でも多くの吹上北中生が、掃除への取組みを通して、他人から尊敬、信頼される人間に成長してくれることを期待しています。

以上です。